

## 第6回美浜区地域福祉計画策定委員会議事要旨

日 時：平成18年2月18日（土） 午前10：00～12：00

場 所：美浜区役所3 3会議室

出席委員：幸町地区 桑原啓輔・江本素子

真砂・磯辺地区 飯野勝衛・北昌司・高橋孝介

稲毛海岸・高洲・高浜地区 小椋政子・安保祐幸・続幸子

幕張西地区 田原明・相澤富代・石井恭子

稲浜中 野口照夫

事務局：美浜区長 海宝和男 保健福祉総務課 高須、美浜区福祉サービス課 上村、八木

美浜区社会援護課 植田 美浜区介護保険課 今泉

### 議事

#### 議題（1）プロジェクトの進捗状況について

（相澤委員）災害時要援護者支援プロジェクトについて

これまで、5回の会議を開催した。メンバーは13人。避難所マニュアル班と要援護者支援に関するアンケート班に分かれ作業中、美浜区内に139ある自主防災組織に3月半ば過ぎまでに要援護者の把握などについてアンケートを実施。集計後、自主防災組織と意見交換を行う予定。

（高須）ひまわり広場について

2回の会議を開催した。知的障害児とその家族のための居場所・交流の場づくりをめざすもので、特殊学級、養護学校の保護者が集まり、支援費の使い方、学校の状況などについて意見交換。

今後は、障害児も参加したボーリング大会などのイベントの開催と月1回程度、定例で集える居場所（情報交換の場）を設置したいと考えている。

#### 議題（2）パブリックコメントについて

パブコメは、計画の推進をどうするか、担い手、広報PRについてなどで、詳細は資料のとおり。

パブコメの意見を受け補足説明を加えるなどの修正を行った。また、委員・所属団体名と対応を今後に委ねることになるので、推進や広報PRに関わるパブコメ意見を計画書に追加した。また、プロジェクトの進捗に合わせた内容とあんしんネットの指定管理者に関わる記述の変更を行った。

#### 議題（3）計画の決定について

（続委員）災害時要援護者支援プロジェクトと介護保険事業者との連携はできないか。

（相澤委員）行政へ要望し、制度化が必要と考える。

（高須）今後の取り組み32の中で触れているので進めていきたい。

（安保委員）あんしんネットについて。地域でコミュニティセンター運営を考えたが、指定管理者にはなれなかった。今後は行政の支援を受けながら場を見つけ方向転換していきたい。

（石井委員）立派過ぎる計画で、わからないと感じる。今後、具体的にどうなっていくのか。また、災害時など、マンション住人の温度差が大きい。若い人の関心薄い。身近なものとしていくためにPRが必要だと感じた

（北委員長）今後作成する計画PR版の部数などは

（高須）美浜区内の町内自治会回覧板で回覧したいと考えている

（石井委員）回覧のみでなく自治会ごとで高めていくようにしていかないと、せっかくのPR版も素通りしてしまいそう。

（飯野委員）目先のことしか考えない若い人が多くなっている。相互扶助の意識をつくっていくことが必要であり、そうでなければパンフレットをいくら作っても素通りしてしまう。広げるために身近な人とのつながりが重要。災害時も、各人が手助けする気持ちを作るのが大切。小中学生から教育し、実行できるようにする必要がある。

(小椋委員) 災害時、まず自分の体を守ることを考えなくてはならない。72時間たないと行政の救援活動はできない。72時間をどう過ごすか。二次災害もある。

健常者対策はあるが、障害者対策についての情報交換は不足。どう情報を伝えるかを考えるべき。社協地区部会、民委の力が必要だが、前提として障害者等の弱者、民委の所在の情報が必要。自分たちができるのは、避難所に来てからのサポートではないか。

(高橋委員) 京葉線の海側には備蓄倉庫もない。そういう状況で弱者の把握などできない。3日を自分で何とかする方法を行政が提示すべき。

地域で実施した避難訓練で、21,000人の住民のうち、知的障害者で訓練参加者は1人だけ。啓蒙の仕方を考えるべき。土台をつくるべき。

(桑原委員) 実際を想定して、防災訓練には車椅子使用者にも参加してもらおうと呼びかけている。マンション棟1人くらいは出てくれるようになった。そういう場に参加できるような雰囲気を作ることが必要。地域内のコミュニケーションが大切。通常は中学校区で実施するが、たまたま自分たちは小学校区で実施しているのもコミュニケーションがとりやすいため。アンケート回収率1割程度。若い人は働いている人が多く、ボランティア募集しても集まるかどうか心配。

(相澤委員) 支援する人とされる人の間の温度差にギャップ。する人はできるだけ情報が欲しいが、される人は、障害や病気などの情報はあまり言いたくなく、近所の人には言いたくない。ヘルパーも近所には行かないように配慮している。近所付き合いが昔とは感覚が違う。災害時要援護者登録シートには、書きたい人は書くという選択性にしてある。

(桑原委員) 本人が嫌がる。民委を拒否して孤独死した人もいる。

(高橋委員) 文化的背景もある。

(田原委員) 企業庁が売った土地へのマンション建設問題を経験して、空いている土地を自分たちが活かさなかったことも原因であり、地域住民の意識改革ができた、いい教訓になったと感じている。この計画の提案も受け入れやすくなったのではないかと思う。

(佐々木委員) プライバシーの問題もわかるが、まず近隣の人として知り合い、その人が支援者になっていくという形であればスムーズに進む。支援される人の立場を考慮して支援に当たって欲しい。お互いにコミュニケーションをとろうという努力をすることが必要。近づいていく営みが地域福祉ではないかと思う。

(北委員長) 住民流福祉総合研究所について紹介。50世帯くらいの単位での福祉圏の考え方。

災害時の対応など、向こう三軒両隣の関係が作れるかどうかを試金石。参考になればと思い紹介した。

(小椋委員) 本人が拒否するような人、隣近所との交流が不必要と思う人も、孤独死すれば亡くなってから近所に世話になるということを知ってもらうべきではないかと思う。

(相澤委員) 人間のプライドの問題か。

(高橋委員) 自治会費を振込にしないで集金にいくようにしている。戸をたたかないと出てこない。地域の人が気をつけないといけない。

(野口校長) 子ども達には原体験、原風景を体験させたいと思う。人の役に立つ、迷惑をかけない、喜ばれると気持ちいいなどの体験を多くさせてあげたい。自然教室では、体育館が使えないので食堂で活動するが、係だけでなく全員が動くようになった。実行委員がみんなの協力に感謝した経験。人の気持ちがわかるということが全ての基礎になるのではないか。学校に地域の人に来てもらうことを働きかけたら20人もきて、熱い気持ちで教えてくれ、生徒もそれを感じる。地域に支えられている学校だと思う。

(小椋委員) 子ども達も、地域のことを「当たり前です」といって協力してくれる。

(野口委員) 高校生、大学生、社会人になってもらっていいと思う。

(桑原委員) 自分たちの地区の子ども達も協力してくれる。そういう教育の方針なのではないか。

(高橋委員) 地区の清掃に参加した子ども達が、学校を超えて友達になるメリットがある。

(北委員長) 計画の決定について、異論はないか。

(高橋委員) 学校解放はどうなるのか。

(高須) 推進協議会で検討していく。

(北委員長) では、計画はこれで決定する。

議題(4) 今後のスケジュールについて

スケジュール、体制について説明。

- ・ 推進協議会の事務局は美浜区福祉サービス課総合相談窓口と社協区事務所、保健福祉総務課。社協は、1人増員され、コミュニティーソーシャルワークを行う。
- ・ 「NPO法人ちば地域再生リサーチ」は、福祉活動者あるいはプロジェクトリーダーとして参加可。事務局から打診する予定。

(北委員長)区職員に計画を読んで欲しい。区選出の市議会議員に計画を送付・説明したい。「溜まり場」が欲しい。フラッと寄って雑談できる場が欲しい。

(高橋委員)空教室の使用について、学校に申し入れをしたが応答が無い状態。区役所・保健福祉センターに場所が作れると良い。

(区長)保健福祉センター開設後、社協のボランティアセンターのスペースができる。社協の活用ができるのではないかと思う。

(北委員長)もう少し早く、5月くらいには溜まり場ができるよう検討して欲しい。

(小椋委員)夜9時頃まで、土日もあけて欲しい。若葉区のボランティアセンターは5時で終わってしまう。

(北委員長)溜まり場問題は、区長と別途協議したい。

以上